

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【福島市立水保小学校】

1 実践テーマ	I V
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生 71名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( 体育科 総合的な学習 )</p> <p>② 行事名 (パラ伴走者によるトライアスロン教室・講演会)</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	「オリンピック・パラリンピックから学ぼう」 オリンピック・パラリンピック選手と交流することにより、スポーツへの興味・関心を高め、目標に向かって努力しようとする態度を育む。
5 取組内容	<p>11月29日に東京2020パラリンピックのトライアスロン女子（視覚障がい）で伴走者を務めた菊池日出子氏をお招きし、前半は、「夢・目標を叶えるために」と題して、「トライアスロンを始めたきっかけ」、「東京パラリンピックに出場して」などについて講演をいただいた。「パラアスリートは、障がいを言い訳にせず、一生懸命練習・競技に取り組んでいる。世の中には、すごい人がたくさんいる。」、「夢・目標に向かって、失敗を恐れず挑戦してほしい。」など、体験や経験を通して学んだことをエピソードを交えながら教えていただいた。後半は、視覚障がい者への援助体験（ブラインドウォーク）を行った。児童は、菊池氏からアドバイスをいただきながら、視覚障がい者の方にどう声をかけ、援助すればよいのかを実感した様子だった。</p>



<p>6 主な成果</p>	<p>自分の夢の実現のため、ひた向きに努力を重ねたパラリンピアン（伴走者）の話を聞くことにより、夢や目標をもつことや、それらを達成するための努力の大切さに気付くことができた。児童は自分の今までの生活を振り返り、スポーツに限らず、今後の生活において、どんな時でもベストを尽くすことが大切であることを知ることができた。</p> <p>本教育を通して、児童のオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心がますます高まり、夢や希望をもつことの大切さを理解し、目標に向かって努力しようとする態度を育むことができた。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>今回お招きした菊池日出子氏をはじめ、本県には出身及びゆかりのトップアスリートが数多い。そのため、オリンピック・パラリンピックについて具体的な話を聞く機会に恵まれている。しかし、講師の諸氏も多忙な中、日程等の調整が難しいことが多い。そのような中、所属団体との連絡を密にし、調整を進めることにより、本事業を実現することができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>コロナ禍の中、実際に児童とアスリートが交流できる時間をどのように確保するかが課題である。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>これまでの取組とレガシーを継承し、来年度以降もオリパラ教育を通して、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高め、目標に向かって努力しようとする態度を育てていきたい。また、「スポーツを楽しむ」、「共生社会」等について、様々な思いや考えを発信できる機会ととらえ、学習指導要領における扱いに沿いながら実践を続けたい。</p>